

## 刊行にあたって

---

本書を手にとってくださいました歯科医師や歯科衛生士をはじめとするスタッフの皆様、現在お勤めの歯科医院の雰囲気はいかがでしょう？ 院内のコミュニケーションは十分にとれて、みんながお互いを慈しみ合い、リスペクトし合って診療に臨んでいるのでしょうか？

予約制の診療で時間に追われるなか、院長・スタッフ間がコミュニケーションをとってお互いの理解を深めていくのはかなり難しく、ほとんどの歯科医院で不十分なのではないかと思います。些細なボタンのかけ違いが日常茶飯事で起こり、それがだんだんと大きな亀裂となってギクシャクした関係に至ってしまうことも……。その末路の最たるものが、よく耳にする「ある日突然、スタッフ全員が辞表を提出」という大惨事でしょう。これは、院長にとってもスタッフにとっても歯科医院にとっても不幸であり、そして最も被害を受けるのは十分な歯科医療を受けられない患者さんです。

「そんなこと言っても、患者さんにも治療にも時間にも気を配っているなか、スタッフ（院長）が何を思っているかなんて、考えていられない」と思っている方は多いかもしれません。あるいは、「スタッフ（院長）とコミュニケーションをとって、自分ができることは協力したいが、そのきっかけがない」と考えている方もいるでしょう。仕事上のパートナーとして、お互いを理解し合えていけば、診療がスムーズに進み、どちらも無用なストレスを抱えずに済むのは、誰もが同意するところだと思います。直接相手の考えを聞いたり思いやったりする時間がない、あるいはきっかけがないという院長やスタッフの方に向けて企画したのが本書です。

本書は、1つのテーマを院長サイドとスタッフサイドがそれぞれどのように捉えているかを解説しています。本書を読むことにより、院長はスタッフの、スタッフは院長の考えがある程度わかるようになります。いわば、院内の人間関係の橋渡しとなる本です。疾患も人間関係も、早めの対処がその後を左右します。誰にとってもストレスフリーな歯科医院とするためのヒントが盛りだくさんの本書を、ぜひご活用ください。